

FD NEWSLETTER



CONTENTS

- 「障がいのある学生の修学支援に関する検討会(第一次まとめ)」について
学生支援担当副学長
久保田 昌希
- 平成 25 年度公開授業の実施について
 - 公開授業を終えて
経営学部教授 小本 恵照
 - 2013 年度公開授業(高 媛先生「異文化間コミュニケーション論」)を参観して—
GMS 学部講師 松前 恵環
- やる気にさせる授業
医療健康科学部 瀬尾 育弉
- FD 推進委員会の今後の活動予定

「障がいのある学生の修学支援に関する検討会 (第一次まとめ)」について

学生支援担当副学長
久保田 昌希

平成 18 年 12 月、国連総会で採択された「障害者の権利に関する条約」が、同 20 年 5 月に発効した。我が国は同 19 年 9 月に署名し、現在は締結に向けた法整備を行っている段階にある。それは同 23 年 8 月の「障害者基本法」の改正、本年 6 月の「障害者差別解消法」の公布などであり、これらを通して障害者をめぐる施策と制度が、現在大きな転換期を迎えている。こうしたなか、昨年 6 月文部科学省高等教育局に「障がいのある学生の修学支援に関する検討会」(座長は竹田一則筑波大学大学院人間総合科学研究科教授)が設置され 7 ヶ月の議論をへて同年 12 月に標記の報告書がまとめられた。

ところで「障害者の権利に関する条約」には、締結国は平等の促進と差別の撤廃を目的として、障害者への「合理的配慮」の提供確保が決められている(第 5 条第 3 項)。「合理的配慮」とは「障害者が他の者と平等にすべての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう」(第 2 条)とある。この点をふまえ、大学等における「合理的配慮」について、報告書は「障害のある者が、他の者と平等に「教育を受ける権利」を享有・行使することを確保するために、大学等が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、障害のある学生に対し、その状況に応じて、大学等において教育を受ける場合に個別に必要とされるもの」であり、かつ「大学等に対して、体制面、財政面において、均衡を失した又は過度の負担を課さないものとした」とまとめている。以下、報告書は「大学等における合理的配慮について」(1)機会の確保(2)情報公開(3)決定過程(4)教育方法等(5)支援体制(6)施設・設備、また「国、大学等及び独立行政法人等の関係機関が取り組むべき事項」として、(1)短期的課題①各大学等における情報公開及び相談窓口の整備の促進②拠点校及び大学間ネットワークの形成、(2)中・長期的課題①大学入試の改善②高校及び特別支援学校と大学等との接続の円滑化③通学上の困難の改善④教材の確保⑤新教育の活用⑥就職支援等⑦専門的人材の養成⑧調査研究、情報提供、研修等の充実⑨財政支援、についてまとめている。

今日、大学における障害学生の急増により、各大学ではこれまで以上に、その受け入れや就学支援体制の整備が急務であることがいわれており、本学もそのなかにある。現状では必要に応じて担当教員と関係部署によるチームにより支援体制を作り対応しているが、今後、他大学にも学びつつ、また、勿論ながら建学の理念に則り対応を考えていきたい。

本年 10 月 24 日(木)に、独立行政法人日本学生支援機構主催によるシンポジウム「平成 25 年度 高等教育における障害学生支援に関するシンポジウム～各大学に求められる「合理的配慮」とは何か～」(於 TKP ガーデンシティ品川ボールルーム)が開催され、私は桑田副学長と共に出席したが、報告書はそこで資料として配付された。シンポジウムの募集人数は定員 1,200 名程度という主催者の設定通り、会場はほぼ一杯であり、各大学等における関心の高さが感じられた。

なお、本報告書については、インターネットで公開されているので、多くの教職員各位に読んでいただきたく思う。

平成25年度公開授業の実施について

平成25年度「公開授業」を以下のとおり実施した。「公開授業」は、授業改善のための教員による相互研鑽を目的とし、工夫に富んだ授業に接し、その体験によるさまざまな発見を通して、今後の授業改善のためのヒントを得ることにある。公開授業は、各学部等のFD推進部会のご協力により、各学部等主体にて実施された。

| 学部 | 担当教員 (敬称略) | 実施日 | 時限 | 教場 | 科目名称 |
|------|---------------|---------------|----|--------------------|------------------------------|
| 仏教学部 | 石井 清純 | 12月3日 (火) | 3 | 禅研 | 坐禅実習(全学共通科目) |
| | 池上 光洋 | | | 坐禅堂 | |
| | 熊本 英人 | 12月4日 (水) | 3 | 禅研 | 坐禅実習(全学共通科目) |
| | 池上 光洋 | | | 坐禅堂 | |
| | 山口 弘江 | 12月3日 (火) | 4 | 2研-102 | 仏典講読Ⅱ |
| 文学部 | 坪井 健 | 11月27日 (水) | 5 | 1研-1408 社会学科資料室 | 社会学演習Ⅰ |
| 経済学部 | 渡邊 恵一 | 12月2日 (月) | 1 | 8-361 | 日本経済史 |
| | 姉齒 暁 | | 3 | 1-303 | 消費経済論 |
| | 溝手 芳計 | | 3 | 8-465 | 農業政策 |
| | 村松 幹二 | | 4 | 8-256 | 制度の経済学 |
| | 江口 允崇 | | 4 | 9-392 | 財政学 |
| | 谷敷 正光 | 12月3日 (火) | 2 | 2研-203 | 教育経済論 |
| | 小杉 修二 | | 3 | 8-152 | 中国経済論 |
| | 吉田 真広 | | 3 | 1-401 | 貿易論 |
| | 山縣 弘志 | | 4 | 8-362 | ロシア・東欧経済論 |
| | 代田 純 | 12月4日 (水) | 1 | 9-391 | 金融論 |
| | 北口 りえ | | 1 | 2研-101 | 会計学基礎、会計学総論 |
| | 有井 行夫 | | 2 | 2研-101 | 経済理論A・資本の原理、 経済理論IA・資本の原理 |
| | 松田 健 | | 2 | 1-401 | 現代企業論b |
| | 友松 憲彦 | | 3 | 2研-101 | 西洋経済史 |
| | 森田 佳宏 | | 3 | 8-256 | 会計監査論 |
| | 長山 宗広 | | 3 | 8-467 | 起業論 |
| | 齊藤 正 | | 4 | 8-151 | 現代銀行事情 |
| | 矢野 浩一 | | 4 | 2研-203 | 応用マクロ経済学 |

| | | | | | |
|-------------|--------------|---------------|--------|---------------------|------------------------------|
| 経済学部 | 番場 博之 | 12月5日 (木) | 1 | 1-301 | 流通政策、商業政策 |
| | 百田 義治 | | 1 | 8-361 | 企業経営学b |
| | 小林 正人 | | 1 | 8-151 | 日本経済論 |
| | 荒木 勝啓 | | 2 | 8-256 | マクロ経済学、経済理論Ⅱ・マクロ経済学 |
| | 宮田 惟史 | | 2 | 8-360 | 社会経済学b |
| | 小栗 崇資 | | 3 | 1-301 | 財務会計論 |
| | 舘 健太郎 | | 3 | 9-392 | 産業組織論b |
| | 瀬戸岡 紘 | | 4 | 1-301 | アメリカ経済論 |
| | 堀 龍二 | | 4 | 2研-203 | 人的資源管理論b |
| | 中濟 光昭 | | 5 | 8-150 | 就業力応用Ⅱ |
| | 浅田 進史 | | 5 | 8-152 | 就業力応用Ⅱ |
| | 大石 雄爾 | 12月6日 (金) | 2 | 8-255 | 経済理論A・資本の原理、 経済理論IA・資本の原理 |
| | 吉田 真広 | | 2 | 9-391 | 国際金融論 |
| | 小西 宏美 | | 3 | 1-202 | グローバル・ファイナンス |
| 石川 純治 | 4 | | 9-177 | 会計情報論 | |
| 浅田 進史 | 4 | | 1-301 | 経済史 | |
| 光岡 博美 | 5 | | 2研-101 | 社会政策 | |
| 石川 祐二 | 5 | | 8-256 | 管理会計論b | |
| 吉田 敬一 | 12月7日 (土) | 1 | 2研-102 | 中小企業政策論 | |
| 松本 典子 | | 1 | 8-152 | 非営利組織論b | |
| 曾我 信孝 | | 3 | 2研-209 | マーケティング | |
| 松井 柳平 | | 3 | 8-362 | ミクロ経済学、経済理論Ⅱ・ミクロ経済学 | |
| 法学部 | 大西 楠・テア | | 2 | 8-150 | 憲法 |
| 経営学部 | 小本 恵照 | 11月29日 (金) | 2 | 8-465 | 現代企業論 |
| 医療健康 科学部 | 岡田 朋子 | 12月3日 (火) | 1 | 9-179 | 基礎化学 |
| GMS 学部 | 高 媛 | 11月26日 (火) | 2 | 1-304 | 異文化間コミュニケーション論 |
| 総合教育 研究部 | 久保 陽一 | 11月27日 (水) | 3 | 8-259 | 日本哲学史 |
| 総合教育 研究部 | 鈴木 裕子 | 11月27日 (水) | 1 | 9-284 | 日本文化基礎 |

公開授業を終えて

経営学部 教授 小本 恵照

11月29日(金)2限に「現代企業論」の公開授業を行いました。「現代企業論」は、経営学部の1年次の配当科目で、経営学科では選択科目、市場戦略学科では選択必修科目となっています。したがって受講生のほとんどが1年生です。「企業論」というと企業形態、コーポレート・ガバナンス、企業の境界などが中心的なテーマとなりますが、(1)科目名に「現代」という名称が入っている、(2)1年生向けの授業であるという点を踏まえ、上述の狭義の「企業論」に加え、経営学やマーケティング論を学ぶ上で最低限必要と思われる企業に関する最新の情報を、できる限り幅広く提供することを目標に授業をしています。しかし、経営学などで取り上げるテーマとの重複を避けながら授業を構成することは意外と難しく、試行錯誤の中で取り組んでいるのが現状です。

公開授業の内容は、講義のスケジュールの順番から「企業とイノベーション」になりました。前任校とは公開授業のスタイルが異なり、また公開授業には片桐学部長を始め経営学部の多くの先生が見学に来られるとのことで大変緊張しました。また、普段の授業で資料作成に手を抜いているわけではないのですが、公開授業ということで授業準備をより念入りにしなくてはならないという意識が強くなり、資料作成に通常よりも時間をかけました。公開授業以外の授業の時でも、「公開授業」という意識で授業準備をすると、もっと内容の濃い授業ができる余地のあることを強く認識した次第です。

さて、公開授業の目的は、公開授業担当者と授業見学者が公開授業を材料に議論を行い授業方法の改善を図ることにあると思いますが、公開授業を終えた教室内および昼食を兼ねた会議室での意見交換会は大変有意義なものとなりました。例えば、今回の公開授業の冒頭では、前回の授業の復習を目的に新聞記事を配布し解説をしたのですが、新聞記事の特定の箇所を学生に解説する場合には、口頭で場所を伝えるよりも「書画カメラ」を使うとプロジェクターに投影できるので分かりやすいというアドバイスをいただきました。また、学生に配布する資料に書き込む情報の内容や話し方(声の大きさやスピード)などについても貴重な助言を頂戴しました。これらはほんの一例で、公開授業を通じて今後の授業改善に

つながる数多くのヒントを得ることができたことは大きな収穫だったと思っています。また、意見交換会では、他の先生方の授業方法や授業改善に向けた努力をお聞きしました。お話を聞く中で、先生方の学生の教育に対する熱い思いを強く感じると同時に、自らの授業スキルや内容改善に向けた努力がまだまだ不足していることを認識しました。さらに、会議では、経営学部学生の現状の授業態度や理解度を踏まえて、学生の学力向上に関する方策など、経営学部レベルでの授業運営の問題点や改善の方向などについても活発な議論が交わされました。これらは、すべて公開授業という機会が提供されたことによって実現したわけであり、今回の公開授業は大変有意義だったと思っています。



2013 年度公開授業（高媛先生「異文化間コミュニケーション論」）を参観してー

グローバル・メディア・スタディーズ学部 講師

松前 恵環

先週のまとめに続き、まずは「ここ一週間の『異文化』に関する話題、ニュースをひとつ書いて下さい」という問いかけから講義が始まった。静かにペンを走らせ、「レスポンスカード」に記入していく学生たち。これをきっかけとした教師と学生との対話から、本日の講義のテーマ「地域間の異文化」へと話題が展開されていく。

11月26日、GMS学部 高媛先生の公開授業「異文化間コミュニケーション論」を拝聴した。学問的なテーマについて、どのように学生の興味関心を引き付け、持続させつつ、内容の深い理解まで到達させるかは、私自身講義をしても常に悩まれる点である。本報告では、高先生の講義で用いられていた様々な「仕掛け」について、こうした悩みに対するヒントとしてとりわけ参考になった三点を、紹介させて頂きたい。

一つ目は、テーマへの「スムーズな導入」のための「仕掛け」である。日頃学生たちの反応を見ていると、文字だけのレジュメやスライドよりも、映像や図を用いたものの方が、やはり「取っつきやすい」ように感じる。この講義では、ほとんどのスライドが写真や図で構成されていたことに加え、CM映像、映画の予告編、音楽PVなど、約7本もの動画が使われていた。また、特に今回のテーマ「地域間の異文化」については、「ゆるキャラ」や地域の「方言」などの学生に身近なトピックスが、導入の際に効果的に用いられていたように思う。

二つ目に、「講義の双方向性」を実現するための様々な「仕掛け」も随所に見られた。講義では幾つもの「質問」が用意され、その都度学生自身が考え、冒頭に触れた「レスポンスカード」に書き込んでいく。書いた内容を学生が発表し、教師がコメントする様子は、ゼミの拡大版のような印象であった。講義後に提出する「レスポンスカード」には、発言したかどうかと、発言回数を書くという仕組みになっているようだが、これも積極的な発言を促す一つの「仕掛け」であろう。

三つ目として、楽しく和やかな雰囲気が教場全体を包んでいたことも印象的であった。この講義では、「レスポンスカ

ード」を書く際に近くの人と議論しても構わないという指示が出され、学生たちは楽しそうに課題に取り組んでいた。こうした「仕掛け」は、教場の広さや人数によって必ずしもすべての講義に応用し得るものではないだろうが、しばしば私語は注意されるものである中で、こうした雰囲気づくりの重要性も感じた。

普段なかなか接することができない他の先生の講義を拝聴することができ、多くのことを学ぶことができた貴重な機会であった。有益な講義をして下さった高先生に改めて御礼を申し上げたい。
(出席学生：約100名程度)



連載企画：よりよい教育のために

「やる気にさせる授業」

医療健康科学部 教授 瀬尾 育弉

私は企業に35年勤めていたのですが、頭は良くてなんでもこなすが創造性のないタイプ、言われた仕事を適当にこなす要領のいいタイプ、部下をいじめる（パワハラ）タイプ、他人の出世をひがむタイプ、自己主張が強く一人で浮いているタイプ、何をやらせてもダメなタイプ、と色々な不完全な人種がいます。上司にそんな人がいると特に苦勞します。企業にいた時の後半には、360度評価と言って、上司、同僚、部下から評価される、正当な評価システムができました。本学には無いです。会社にとって必要な人材は、明るくて、謙虚で、コミュニケーション能力にたけ、自ら問題を見つけ解決できるポジティブな人だと言われています。でも、最初からそんなスーパーマンはいなくて、失敗を重ね育っていくの

だと思えます。

文部科学省から平成24年6月に出された、大学改革実行プラン～社会の変革のエンジンとなる大学づくり～
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/24/06/1321798.htm
 を見ると、我が国が直面する課題、将来想定される状況は、
 (1)急激な少子高齢化の進行、人口減少 (2)生産年齢人口減少、経済規模の縮小 (3)財政状況の悪化 (4)グローバル化によるボーダレス化 (5)地方の過疎化・都市の過密化の進行 (6)地域におけるケアサービス(医療・介護・保育等)の拡大とあります。

この状況下で、求められる人材像・目指すべき新しい大学像は、(1)生涯学び続け、主体的に考え、行動できる人材 (2)グローバル社会で活躍する人材、イノベーションを創出する人材 (3)異なる言語、世代、立場を超えてコミュニケーションできる人材、と理想が描かれていますが、具体的に何をやるべきかは、ほとんど書かれていません。

私は、社会に出る前の教育は、人間としての基本がしっかりしていればいいのであって、特に、やる気、素直さが大事だと思います。

では、具体的施策として、何をやるかですが、「驚き、感動の追体験できる授業」ができればと思う。例えば、実験で超音波で自分の体内の画像を手取るように見せる。心臓の弁の動き、血液が左心房から左心室に流れているのがリアルタイムで見える。そんな画像を見ながら、なぜ、音が生体を透過、反射してくるのか、音響工学の原理を説明していく。しかし、全部は教えない。半分教えて、後は自分で調べてレポートにまとめさせる。そうすれば、自分で勉強して基本をみっちり学ぶことができる。興味や感動が人をやる気にさせるので、そんな授業をもっと増やしたいと思っています。

FD推進委員会の今後の活動予定

- 平成25年度第5回FD推進委員会小委員会
平成25年12月20日(金)
- 平成25年度第6回FD推進委員会小委員会
平成26年2月18日(火)
- 平成25年度第3回FD推進委員会
平成26年3月13日(木)

*FD活動についてご意見がありましたら、各学部等のFD推進委員会小委員会委員まで申し出てください。

編集後記

気がつけば、つるべ落としの様にあっという間に日が暮れてしまう季節になりました。そしていよいよ今年も終わろうとしております。皆様におかれましては、今年もFD活動にご協力頂きましてありがとうございます。

さて、一年の締めくくりと致しまして今回も多くの先生方の公開授業が開かれました。公開授業をして下さった新任の先生方やベテランの先生方、授業を参観して下さいました方々は、公開された授業に対し、多くのご意見や感想をお持ちになった事と存じます。そのご意見をすくいあげ、皆で今後のより良い授業のために活用、検討していくようなシステムが上手に機能していない現在の状況に、残念な思いをなさっていらっしゃる皆様もたくさんおいでになると思います。このような現状も相まってか、公開授業の参観者が年々減少しております。今回はかなりの広報活動も行いましたので、若干回復の傾向をみせておりましたが、今後は、授業を公開する側も、参観する側も、双方のご意見を生かせるような、わくわくするような公開授業のあり方につきましても、検討していく必要があると考えております。

(熊坂さつき、白水繁彦)

【タイトル横の写真は、7号館からみた9号館・体育館周辺】

FD NEWSLETTER Dec. 2013 第37号

発行日：2013年12月15日

発行者：駒澤大学FD推進委員会

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1

TEL 03-3418-9444 Fax 03-3418-9114

(事務局：教務部)